



2016 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP Paddock NEWS Vol.2

国内唯一、開発競争のあるミドルフォーミュラF4の魅力を探る



毎年、気鋭の若手が登場してくるJAF-F4に参戦し、結果も残してきた加藤智。あくまでもアマチュアだと本人は謙遜するが、そのセッティング能力はエンジニアも高く評価する。好調の大漕を破り勝利なるか。

ワンメイク・ダンロップタイヤでどう攻める？ 4年目のベテラン、加藤智のセッティング持論 趣味を越えた領域

車体は開発競争が存在するJAF-F4だが、タイヤはダンロップのワンメイク
いかに車体性能をタイヤに合わせ込めるか、エンジニアはもちろんだが
ドライバーのセッティング能力が問われるカテゴリーなのだ

Text：大串 信 (Makoto Ogushi)
Photo：佐々木純也 (Junya Sasaki) / 米重有三 (Yuzo Yoneshige)

フォーミュラカーは究極のレーシングカーであり、多くの選手はトップフォーミュラへと続く階段を上るため、順を追って経験を積み技を磨く。だが、必ずしも全員がステップアップのために走っているわけではない。究極のレーシングカーを操って競い合う楽しさを見いだしている選手も少なくない。F4（以下JAF・F4）選手権に参戦する加藤智選手もそのひとりだ。「多くのレースは、シロウトの趣味なんです」と加藤は言う。「スーパーFJを経てF4に came しました。もちろんもつと上のカテゴリ、たとえばF3にも乗ってみたいとは思っていますが、さす

が自分の金銭力ではF4が限界です。その態度に惹かれた素振りも見えない。だが、趣味とはいえJAF・F4で4シーズン目を迎えた加藤のドライビングスキルは常に上位争いをするまでに達しており、ツインリンクもてぎでの東日本シリーズ第3・4戦では連続で2位入賞を果たしている。JAF・F4は、マルチメイクのシャシーにダンロップが供給するワンメイクタイヤを装着して闘うレースだ。それだけにシャシー特性とタイヤ特性をうまく引き出す能力が問われることになる。「最初のシーズンは、タイヤの特性を理解することなどで済まずに終わりました」と加藤は認める。「そのうち、クルマのセッティングでタイヤの限界をどのように引き出すかが重要なだと気づきました」。B・MAXで加藤のマシンを担当する細木エンジニアは、セッティングとタイヤの関係についてこのように語る。「ダンロップのタイヤは、作動領域に持っていきさえすれば、距離にして少なくとも150kmはずっと同じグリップとバランス特性を示します。たしかに新品の一番おいしい瞬間はありますが、基本は使いやすいタイヤです」。ZAP SPEEDで、ステップアップを志す若手を相手にすることが多い内間エンジニアも同様の感想をもちます。「走り込むと、タイムは徐々に落ちていくのですが、前後のバランスがそれほど大きく変化しません。だから、ユーズドタイヤでセットアップをした場合、ユーズドのぶんタイムは落ちますが、そのバランスのまま新品を履い

てもバランスが大きく崩れることなくタイムが出ます。そういう意味でとてもセッティングしやすいタイヤです」。

ドライビングを磨くタイヤ

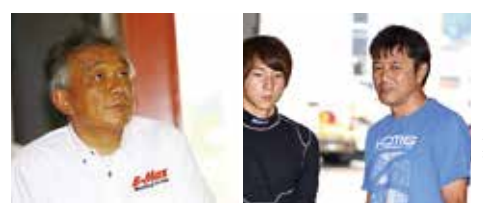
F4では予選と決勝を通して1セットのタイヤしか使えない。予算も限られているなか、前回のレースで使ったユーズドタイヤで予選決勝に向けたセッティングができるのは、ユーザーにとっては大きなメリットとなる。

では、具体的にセッティングはどのように行なわれるのだろうか。レーシングタイヤは丁寧に使えばいいというものではない。想定しただけの負荷をかけて内圧を上げ、発熱させなければ本来の性能は発揮できない。タイヤをバランス良く発熱させるのは、レーシングテクニクおよびエンジニアリン

グの第一歩である。内間氏によれば「毎回内圧については気にします。ダンロップさんのタイヤは、基本的なドライビングを磨くのに適しています。とくにフロントは、荷重をかけてタイヤをうまく、潰さない」と上手に曲がられます。タイヤが勝手に曲がってくれることはなく、あくまでも自分で曲がれるようにならないとダメなんです」ということだ。

細木氏も内圧を指摘する。「自分で内圧を上げられるテクニクがないドライバーの場合、最初から内圧高めでスタートさせます。リヤは上がりやすいけどフロントは上げにくいものなので、前後のバランスに差をつけるという調整もします。ドライバーのレベルに合わせて、昨日より今日、と少しずつタイヤの使い方のレベルも上げて

行く」と、加藤さんの領域にたどりつきます。いま加藤さんのクルマを、ボンと経験のないドライバーに渡しても、乗りこなせないでしょうね。「趣味だ」と言い切りながら、加藤は本格的なフォーミュラカーのドライビングスキルを確実に身につけてつづつある。「長く乗れば乗るほど、本数を重ねれば重なるほど分かってくるものがあります。ほかのように趣味でレースをしている人間からすると、いま使っているダンロップのタイヤは使いやすい。昔は予選を1、2周で終わらせて決勝分を残しておかないと勝負にならないタイヤがあったそうですが、それではおもしろくないじゃないですか」



タイヤとセッティングについて教えてくれたB-MAX細木氏（写真左）とZAP SPEED内間氏（写真右）。そしてベテラン加藤は6月19日にもてぎで行なわれた東日本シリーズ第3・4戦に今季初参戦。第4戦ではPPスタートの大漕をしのぐ好スタートを決めてトップを奪取。しかし両戦とも大漕に次ぐ2位でレースを終えている（写真下）。



「学ばべきことは多いのに、上達が止まっているような気がします」と笑う加藤。今後の成長と活躍に期待しよう。

住友ゴム モータースポーツ部長 谷川利晴氏に聞く 「JAF-F4に最適なタイヤ性能」とは

「JAF-F4にはステップアップを考えている若手もいらっしゃいますが、本格的なレーシングカーでの走りをホビーとして楽しみたい方。また、セットアップを含めたレーシングカー作りを楽しみたいという方もいらっしゃいます。じつはそういう方々が、モータースポーツ界の裾野を広げる役割を果たしていると考えています。彼らに喜んでもらえるタイヤを供給することで、僕力ながらレース界の役に立てればと思います」。



JAF-F4への供給タイヤは、長距離を走っても性能変化が少ないことを技術テーマにしています。F4というカテゴリでは、運転方法やセッティングを変更したときに、挙動がどう変わるのか、タイムがどう変化するのかが重要なポイントです。性能変化が少なく、30分のスポーツ走行を何度か経ても性能の落ち込みが少ないので、セッティングやドライビング練習がやりやすく、コストも抑制できると高く評価していただいています。こうしてモータースポーツを楽しんでくれる方が増えれば、我々のブランド・技術力も高まり販売拡大にもつながっていきますので、参戦意義が高いカテゴリーですね」

6月19日
ツインリンクもてぎ ▶くもり/ドライ ▶12周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	Tauzen Rn-s ミスト	KK-ZS	26'34"654
2	10		加藤 智	FEEL・RK01・TODA	RK-01	+1"822
3	72		金井亮忠	チームNATS・正義 001	NATS001	+10"124
4	51	H1	加藤正将	ブライルバッテリー・マーズ006	WEST006	+16"029
5	17		小倉可光	チームNATS・OAC 090	MC090	+17"480
6	73	H2	里見乃亜	チームNATS・エクシズ006	WEST006	+18"406
7	19	H3	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマー・バリユ	WEST056	+19"375
8	26	H4	内村浩二	K Rac winmax 006	WEST006	+20"738
9	34		三浦 勝	CMS090	MC090	+21"064
10	2		飛田陽宏	ガレー茶畑まえた眼科RK01	RK-01	+22"135
11	61	H5	上野山晶太	カーズSR-F4	WEST056	+28"376
12	27		SYUJI	B-MAX・RK01・TODA	RK-01	+46"853
14			金澤力也	VSRランボルギーニ F108 F108		-3Laps
3			今中大介	B-MAX・RK01・TODA	RK-01	-7Laps
5	H		相馬亮寿	ブライルマーズアイテック006	WEST006	出走せず

6月19日
ツインリンクもてぎ ▶くもり/ドライ ▶12周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	Tauzen Rn-s ミスト	KK-ZS	23'05"258
2	10		加藤 智	FEEL・RK01・TODA	RK-01	+3"499
3	2		飛田陽宏	ガレー茶畑まえた眼科RK01	RK-01	+7"185
4	51	H1	加藤正将	ブライルバッテリー・マーズ006	WEST006	+21"069
5	73	H2	里見乃亜	チームNATS・エクシズ006	WEST006	+21"898
6	72		金井亮忠	チームNATS・正義 001	NATS001	+24"666
7	19	H3	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマー・バリユ	WEST056	+42"920
8	26	H4	内村浩二	K Rac winmax 006	WEST006	+44"042
9	3		今中大介	B-MAX・RK01・TODA	RK-01	+47"442
10	17		小倉可光	チームNATS・OAC 090	MC090	+53"628
11	61	H5	上野山晶太	カーズSR-F4	WEST056	+55"460
12	27		SYUJI	B-MAX・RK01・TODA	RK-01	+55"917
13	5	H6	相馬亮寿	ブライルマーズアイテック006	WEST006	+99"609
14			金澤力也	VSRランボルギーニ F108 F108		-12Laps
34			三浦 勝	CMS090	MC090	出走せず

7月3日
鈴鹿サーキット東コース ▶晴れ/ドライ ▶23周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s MYST JSS	KK-ZS	19'32"024
2	3		澤田真治	B-MAX・RK01・TODA	RK01	+10"261
3	14		金澤力也	VSRランボルギーニF108 F108		+15"092
4	12		吉田宣弘	佐藤製作所☆MYST☆ガレーゾンダ	KK-ZS	+18"945
5	46	H1	入築秀謙	フジタ製作所☆モーターテック☆TMS		WEST056
70			岡本武之	ビスキューブレーシングMC	MC090	
51	H		藤井敬士	フジタ製作所☆モーターテック☆FRD	FRD956	